

軟式野球における硬式野球との比較調査研究

—大学軟式野球選手の意識調査—

名古屋 光 彦

The research in comparative investigation with regulation baseball in rubber-ball baseball

— University rubber-ball baseball player's consciousness survey —

1. 緒 言

スポーツ競技の中にはルールなどがほぼ一緒であるが、使用する道具などが異なる競技があり、テニスや野球、バレーボール、サッカーなどの球技にはボール等の違いにより異なる大会が開かれている。中でも野球は大枠で硬式野球と軟式野球という2種類に分類される競技であるが、日本における競技人口は190万人を超えとも言われ、中でも軟式野球の競技人口は硬式野球よりもはるかに多いと言われている。しかしながら、現代のスポーツにおいてはメディアを抜きにしては考えられず、特にテレビによるスポーツファンの人数はかなりのスピードで増大してきたこともあり、国内の野球認識としては日本プロ野球（NPB）やアメリカメジャーリーグ（MLB）、高等学校野球選手権大会（甲子園）など硬式野球のほうがどうしても注目される。こうしたことから時に実力はもちろん立場まで軟式野球よりも上であるといった誤認をしてしまうことがある。ただし、硬式野球の活動を経験した中でほとんどの選手は、年齢が重なると共に軟式野球の活動へと移行していくことが多く見られる傾向にあることも事実である。

今回の調査対象とした大学世代では、高校時代において硬式野球の経験者が非常に多く、大学軟式野球部に所属する選手たちでも、全国的に活動するチーム内において8割以上もの選手が硬式野球部出身というチームが数多く存在する。

ほとんどの大学には硬式野球部が存在するにも関わらず、軟式野球部を選択している選手も多くみられ、野球競技活動を継続している。ただし、硬式野球経験者は軟式野球を甘く見てしまうことがあり、転身後すぐにでも実力を発揮できると考えてプレーをしてしまう。しかし、硬式野球経験者がすぐに軟式野球で活躍するとは限らず、ボールの重量や材質、固さ、戦術戦略の違いなどから微妙な感覚のずれを感じてしまうことが多い。

また、軟式野球を活動することによって硬式野球よりも安全で活動場所などの制約が比較的少なく、気軽に活動できることもあり、勝利主義ということだけではなく、生涯スポーツとしての継続的競技価値観などが見直される傾向にある。

本研究の目的は軟式野球と硬式野球におけるプレー感覚や、軟式野球を活動するにあたりスポーツとしての価値観を調査することにより、適正な競技活動をする上での意識準備を構築するための基礎資料を得ることである。

2. 調査方法

今回の調査は軟式野球と硬式野球を比較研究するために、いずれかを比較的自由に選択することができる環境の「大学」という高等教育機関に在籍している選手たちへの意識調査を導入した。なお、調査はK大学軟式野球連盟加盟13大学に行い、このうち本文は軟式野球部および硬式野球部が存在する11大学200名を対象としたものである。同連盟は近年全日本選手権など上位大会において優勝や準優勝など全国でも上位に進出するチームが所属する連盟である。こうしたことから大学によってチーム力や個人技術の差が大きい部分も見受けられることもあるが、技術が高い選手が揃う強豪の大学だけの調査でなく、幅広い技術の選手に対し軟式野球と硬式野球の違いについて調査することによって、両競技の比較につながると判断したためである。

調査は2010年12月20日から2011年1月30日において選択方式による無記名アンケートとして実施した。

3. 結果と考察

調査を実施した大学軟式野球組織において、該当選手が高校時に硬式野球または軟式野球、どちらの部活動出身であるのを調査した資料が表1になる。この表からわかるように調査を実施した団体における硬式野球部出身者の割合が90%を超え、高校時代に硬式野球を経験していた選手が数多く存在することが確認できる。この要因のひとつには、全国的な高校組織における野球団体設置の割合が、圧倒的に硬式野球が多いことがあげられる(表1-2)。

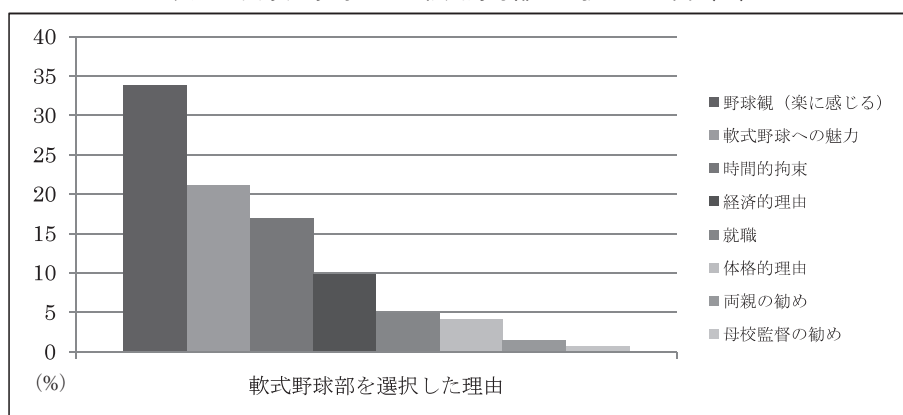
表1 高校時代の硬式野球部・軟式野球部の出身割合 (K大学軟式野球連盟調査)

	硬式野球	軟式野球	計
人数	181 (90.5%)	19 (9.5%)	200

表1-2 平成23年度部員統計資料（日本高等学校野球連盟資料より）

	硬式野球	軟式野球
加盟校数	4,090	477
加盟人数	166,925	10,983

表2 大学進学時による軟式野球部を選択した理由（％）



3.1 選択理由

表2をご覧ください。高校から大学へ進学するにあたり硬式野球部または軟式野球部が存在する中、選手たちが硬式野球部ではなく軟式野球部を選択した理由の割合である。もっとも多かった項目は「野球観（楽に感じる）」であった。高校時に硬式野球部出身者が多く存在する中、この項目が最も多いことから言えるように「軟式野球＝楽である」と認識していることがあげられる。これは、すべてでないものの各高校における硬式野球部は強化指定を受けている学校が多いことや、全運動部の中心的組織の役割を担っていることがあり、チームによっては「勝つことは善であり、負けることは悪である」というような歴史的な背景から培われてきた日本独自の風潮があると考えられる。逆に軟式野球は全国的に部活動として組織されていない高校も多く、時にレクリエーション的な競技と誤認してしまう傾向がみられるため、大学進学後に「軟式野球＝楽である」という認識のもとに大学時ではもっと自由に野球を楽しみたいということから、軟式野球を選択する選手が多く存在することも事実である。

さらに、活動するにあたりアンケート回答の25%ほどが「時間的拘束」「経済的理由」から軟式野球部を選択した理由になっており、個々の生活に直結することが垣間見る結果となっていることも注目すべき点である。

先にも述べたが硬式野球部の多くは大学において強化指定にされるなど体育会の中でも

注目され、練習時間も長く試合結果を求められるケースが多く見受けられる。逆にほとんどの軟式野球部は大学からの強化指定はなく、学生を中心とした組織運営がなされていることが多い。このため、指導体制や施設設備などが整備されていないなど練習時間の調整や活動資金は学生自身が負担をせざるを得なくなっている。しかしながら、自らが運営することで自チームのレベルにあった自由な活動をできるという背景もあり、活動資金における個人負担を抑える努力をしながら競技を続けている選手が多くみられる。

逆に硬式野球部の多くは大学当局からの資金援助や環境提供など、活動しやすい協力を受けていることも確かであるが、使用する高額な野球道具や遠征費の一部負担、練習量の多さからアルバイトなどの活動に制限があるなど、大学当局に資金援助は受けているものの個人負担が多くなってしまう傾向は否めない。

こうしたことから、経済的理由により硬式野球を断念せざるを得ない人材も多くみられる。ただし、野球競技の活動継続を希望する人材も多く、こうした人材が軟式野球への転身をしていることもうかがえる部分である。

3.2 競技感覚の諸問題

さて、野球競技を続ける上で、経済的な不安解消や野球感（楽に感じる）と認識し軟式野球を選択した後、チーム内においてすぐに中心選手として活躍することができ、チームにおいても比較的簡単に上位大会に出場できると安易に感じてしまうことが、実は軟式野球を活動する部分での落とし穴である。高校時に硬式野球を活動してきたものにとって、軟式野球であれば普段通りの活躍やそれ以上のプレーは可能であると認識してしまう傾向にあり、こうしたことが「野球感（楽に感じる）」に繋がっている一つの要因でもある。

しかしながら、実際に競技をすることによりボールなどの道具の違いや戦略の違いなどから軟式野球の難しさを実体験することとなり、競技に慣れるまでかなりの時間を要してしまう傾向にある。

3.3 ボールの違い

硬式野球と軟式野球の違いは使用する道具の違いでもあり、その中心となるものはボールである。硬式野球のボールはコルクやゴムのまわりに糸を巻きつけ牛革で覆ったものを糸で縫い合わせている。軟式野球のボールはゴムでできており中空の構造でボールの表面にディンプルを施してある。特に硬式野球のボールは軟式野球のボールよりも、最大で約15g重く、直径もわずかながら大きい。さらに堅さもあるため硬式野球ボールのほうが一回り大きく感じる。

つまり、こうした「重さ」「大きさ」「堅さ」などからくる様々な違いから硬式野球と軟式野球の違いに戸惑う選手が多いことが実状である。

硬式野球および軟式野球のボールの違い

	直径	重量
軟式 A 号ボール	71.5mm～72.5mm	134.2g～137.8g
硬式ボール	72.9mm～74.8mm	141.7g～148.8g

※硬式ボールの直径は公認野球規則で定められている円周から計算したもの。

3.4 競技としての比較（攻撃）

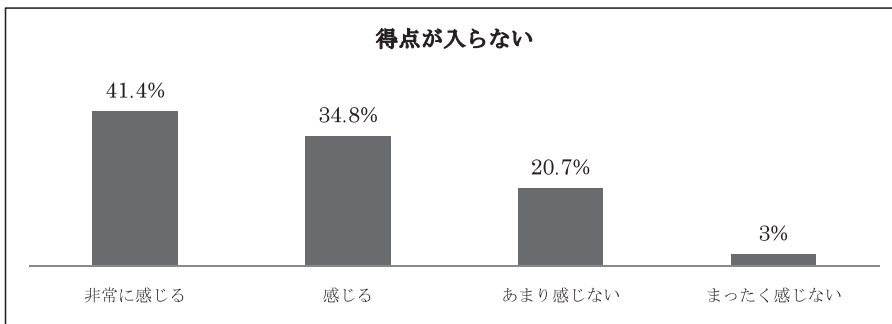
硬式野球を経験した選手にとって、よく聞かれる難しい分野としてバッティングがあげられる。「打球が飛ばない」「うまく芯でとらえられない」「ヒットが打てない」などこれまでの感覚とは、相当異なった感覚でのバッティングとなっていることがうかがえる。

下記項目は特に軟式野球の攻撃に関わる上での特徴的な感覚差を示したものである。

①得点の入りやすさ

試合における得点の入りやすさをどう感じているのかを表した割合になる（表3）。この表から分かるように80%ほどの選手が硬式野球より軟式野球のほうが、得点が入らないと認識している。実際、調査を行った年の全日本大学軟式野球選手権大会では1回戦から決勝戦までの全22試合中、半数の11試合において勝利チームの得点が3点以内の試合を行っている。また、参考であるが同年の全国高等学校軟式野球選手権大会においても1回戦から決勝戦までの全15試合中、7割弱の10試合において勝利チームの得点が3点以内の試合を行っている。逆に硬式野球ではどうだろうか。全国高等学校野球選手権（硬式野球）では上記と同じケースは全48試合中、2割程の10試合のみであることから、軟式野球では得点が入りづらいということが、うかがえるデータである。

表3 試合における得点の入りやすさ（硬式野球より軟式野球は）



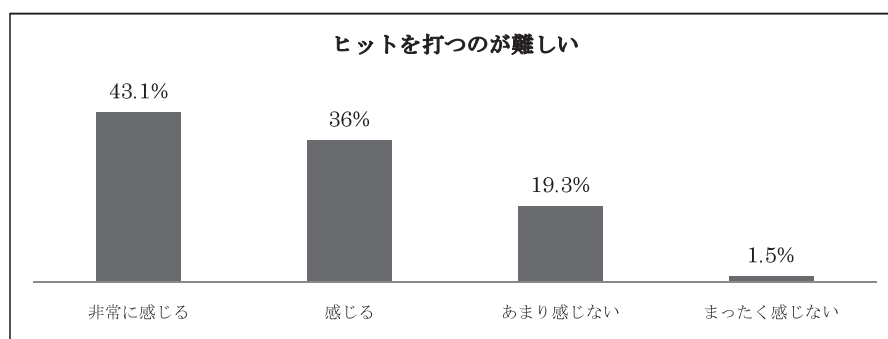
②ヒットを打つのが難しい

それでは、得点が入りづらいと感じている要因として選手はどのように感じているのだろうか。

軟式野球における打撃について選手個々が決して満足することができないといった結果が表れている（表4）。まず80%を超える選手が軟式野球では硬式野球よりもヒットを打つのが難しいと認識しており、硬式野球では好打者であったとしても、なかなか軟式野球ではボールを捕まえにくく、結果ヒットに繋がらないと認識している。軟式野球はボールが柔らかいこともあり、硬式野球に比べると打球が遅く飛距離もでない。

さらにバットの芯をはずすことで、よりボールが変形し強い打球を打つことができなくなる。こうした結果から守備陣の間を抜くことが難しくなりヒットが出づらくなる。

表4 ヒットを打つのが難しい（硬式野球より軟式野球は）



③本塁打が出づらい

さらにヒットが出づらいことにも連動しているが、軟式野球では飛距離が出ないと認識している選手が多く、結果本塁打については選手のほぼ100%に近い選手が出づらいと認識している（表5）。ある選手のアンケート備考欄には高校時において硬式野球では本塁打を多く打つことができたが、大学にて軟式野球に転身することになってボールを捕まえることが難しく感じ、さらに捕まえたとしても思ったように飛距離がでないため、これまで本塁打を1本も打つことが出来ていないという別記があった。

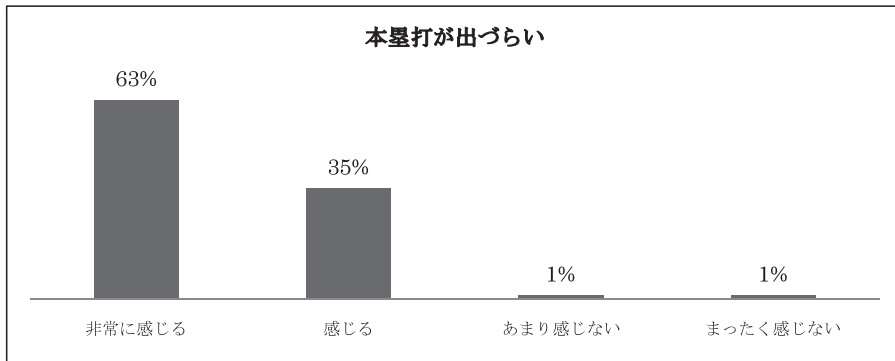
実際2011年度における、硬式野球と軟式野球の高校野球全国大会（選手権大会）の本塁打数の割合を見てみると、同一球場（中堅および両翼の広さが同じ）ではないものの、硬式野球では本塁打が48試合中27本で1試合平均0.6本であるが、軟式野球では15試合中1本と1試合平均0.1本にも満たない。

このデータからも判るとおり飛距離の違いが明確になっており、軟式野球では本塁打の割合が極端に少ないことが分かる。

高校野球全国大会使用野球場の比較表

	球場名	中堅	両翼
硬式	甲子園	95m	118m
軟式	明石	100m	122m
	高砂	91.2m	120m

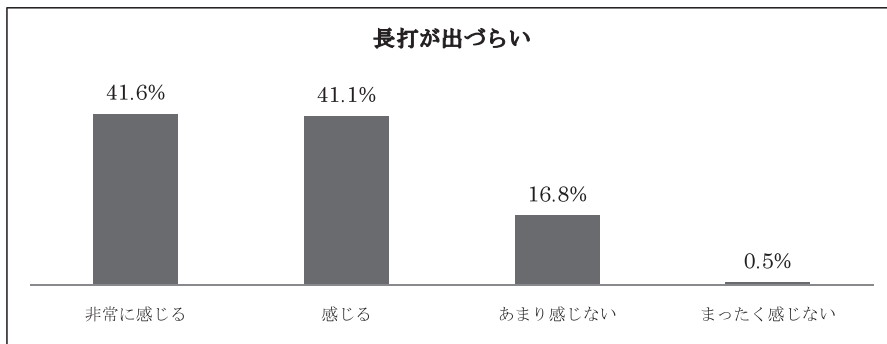
表5 本塁打が出づらい（硬式野球より軟式野球は）



④長打が出づらい

上記から軟式野球では硬式野球よりも本塁打が出にくいと認識していることが判ったが、同時に8割を超える選手が長打も出づらいと認識している（表6）。これは本塁打だけでなく、2塁打や3塁打を含んだものである。基本、軟式野球と硬式野球において実施する球場は同一球場を使用することもあり、フィールドに大きな差があるわけではない。これは飛距離（＝遠くに飛ばす）だけではなく、打球のスピードや後でも述べるが野手の定位位置の違い、打者として投球されたボールを捕まえにくいことから本塁打や野手と野手との間を抜いていく打球が出づらいことからこうした認識を感じている。

表6 長打が出づらい（硬式野球より軟式野球は）



⑤投手の球速に関する感覚

さらに補足であるが、投手が投げる球速について、高校時の野球活動（硬式野球）において球速140km以上の投球と対戦を経験してきたが、軟式野球に転身して130kmほどの投球スピードが硬式経験時より早く感じてしまうことがあるといった別記もあった。これは前記したとおり軟式野球の場合、打者としてボールを捕まえにくく、ヒットに繋がらないという認識から球速が早く感じるといった錯覚からきているものと考えられる。

3.5 競技としての比較（守備）

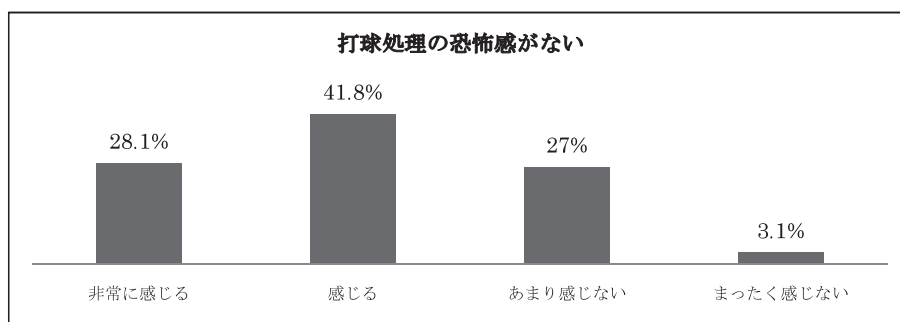
硬式野球を経験した選手にとって、軟式野球に転身することで戸惑いが多く感じられる項目として守備があげられる。これは、当然のことながら使用するボールの違いからくるもので「柔らかい」「ボールが弾む」「不規則なバウンドがある」など硬式野球時の守備よりも不安定さが感じられる。

下記項目は特に軟式野球の守備での特徴的な感覚差を示したものである。

①打球処理の恐怖感がない

軟式野球のボールは硬式野球のボールよりも柔らかいことから打球処理において恐怖感が少なく楽に対応できるものと判断してしまうことが見受けられる（表7）。よって、思い切ったプレーができる反面、気持ちの隙ができ安易なプレーをしてしまうことや、硬式野球ボールとの弾み方などが大きく異なるため、同じ感覚で捕球にいくことによりミスが生じてしまうことが多くなる。

表7 打球処理の恐怖感がない（硬式野球より軟式野球は）



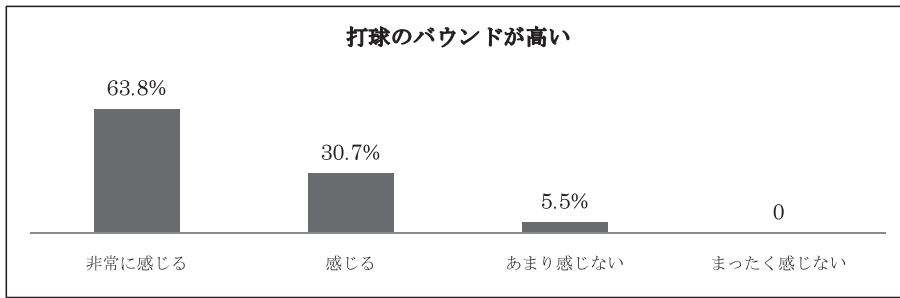
②打球のバウンドが高い

選手たちは軟式野球のボールはよく弾むという認識が高い。全体の90%を超える選手が硬式野球よりも軟式野球における打球のバウンドが高いと回答している（表8）。

特に投手を超えるような高いバウンドは2塁手や遊撃手が処理しにくいプレーでもあり内安打としてしまうことが多々見受けられる。さらにバント処理などもバウンドが高くなることがあり処理をもたつくと、これも内安打となってしまうこともある。

硬式野球にも言えることではあるが、より早く打球を捕球することが重要である。しかしながら軟式野球ではバウンドが高いぶん捕球するまでの時間がかかってしまう傾向にあり、結果内安打としてしまうことや、焦りから守りのミスをおかしてしまうことがある。

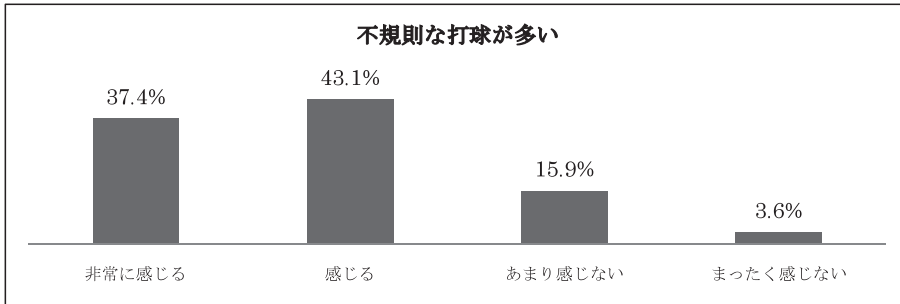
表8 打球のバウンドが高い（硬式野球より軟式野球は）



③不規則な打球が多い

また、軟式野球の特徴として不規則な打球が多いこともあげられる。打者が打ち損ねた打球において急激な回転がかかり、予想不能なバウンドとなる。時に打球方向がボールの回転によって急激に変わるために打球に追いつけないことや、打球を処理する体制となったとしても、グローブの中で回転がおさまらずに打球をファンブルし、エラーをおかしてしまうことがある。不規則な打球が多いということは80%を超える選手たちの認識からもうかがえる（表9）。

表9 不規則な打球が多い（硬式野球より軟式野球は）



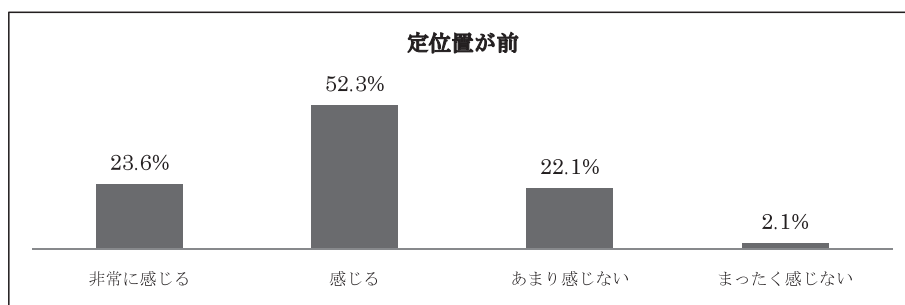
④守備における定位置が前

前章の長打に関わる部分にも関係するが、軟式野球では本塁打や長打が出づらく、打球のバウンドが高いと認識されていることなどから、硬式野球に比べ内野手、外野手ともに定位置が前になることがほとんどである。試合状況や大学生のパワーより硬式野球と変わらぬ定位置をとる選手もいるが、ほとんどの選手が硬式野球よりも軟式野球のほうが守備における定位置は前であると認識している（表10）。

状況にもよるが内野であれば約3歩、外野であれば5歩くらい前になることもある。例えば1塁手や3塁手の定位置は、硬式野球では通常ベースの後方数mになることが多いが、軟式野球ではベース横または前方になることがほとんどである。また、硬式野球ではほと

んど見られないライトゴロアウトということがあり、これは右翼手が1塁でアウトにできる定位置に守ってられることによりなされるプレーである。さらにすべてではないものの、守備側が定位置で守っている場合、右打者がライトオーバー、左打者がレフトオーバーの打球を放つことは非常に軟式野球では困難であることがあげられる。

表10 定位置が前（硬式野球より軟式野球は）



3.6 社会性での感覚

それでは調査対象となった選手たちは、プレーの感覚のほかに軟式野球を生活の中におけるスポーツとしてどう感じているのだろうか。特に注目すべき3項目が下記のとおりとなる（表11）。

①軟式野球は安全

まず野球という競技をする上で、軟式野球は硬式野球よりも安全であると考えている選手が80%を超えている。当然、硬式野球よりもボールが柔らかく軽いため、ぶつかるなどの衝撃が少なくすむという認識からくるものである。

また、ボールの重さからくる肘や肩への負担からの故障が軽減され、さらにアンケート内での補足として高校時硬式野球部に所属し投手を任されていたが肘の故障から継続的に痛みを感じるようになってしまったが、大学進学後に軟式野球への転身をしたことで、痛みが和らぎ試合で登板できるようになった。これは肘への負担が軽減されたものだと感じるとの記載があった。

こうしたことから軟式野球は安全であるとの認識をする選手が多いものと考えられる。

②小さな子供たちに軟式野球を勧めるか

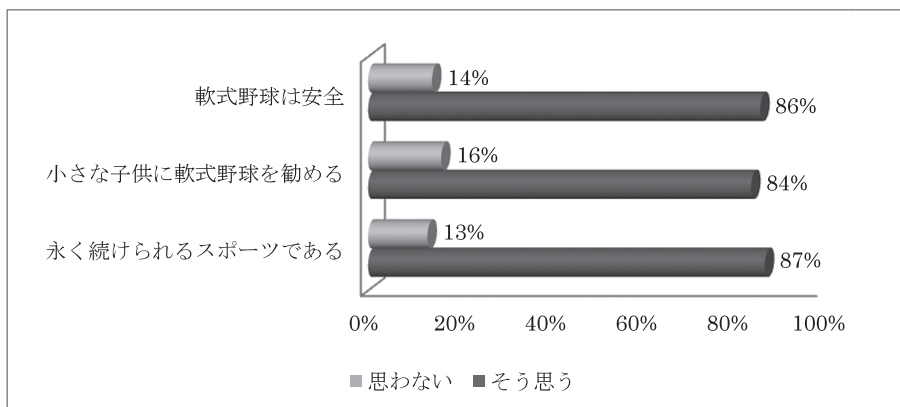
軟式野球は安全であるという認識からも言えるように、選手たちは小さな子供たちに軟式野球を勧めるかとの設問に対し、80%を超える選手たちが「勧める」との回答がなされ

た。これについて考えられるのは、上項に示された安全性はもちろんのこと、家族とのキャッチボールや地域の友だちとの遊びなど比較的活動のしやすい競技であることで、子どもたちが野球を始めるきっかけとして勧められるとしたものと考えられる。

③永く続けられるスポーツ

また、小さな子供だけでなく選手自らがスポーツを続けていく上で軟式野球をどう見ているのかの項目では、表にあらわれているとおり90%近い選手たちが永く続けられるスポーツであると考えている。野球は好きであるがプレーをすることを考えれば、上項と同様に硬式野球よりも軟式野球のほうが手軽で安全であり、競技を行う場所の制限も少ないとの認識からくるものである。さらに高校および大学時代では硬式野球を活動する競技人口は多いものの、卒業後から壮年期にあたる年齢層では、軟式野球の競技人口が大幅に増加している。野球をする仲間や団体、活動する場所が多いことも一因といえる。

表11 生涯スポーツとしての感覚



どの項目においても、軟式野球は「安全」であるという認識がほとんどである。また、スポーツをする上で野球を選択した場合、硬式野球よりも軟式野球のほうが競技をする場所などの制限が比較的少ないことも現状である。たとえばT県の県営総合運動公園には4箇所の野球場があるが、その中で硬式野球の試合を行ってよいとされる球場は1箇所だけである。また、同県K市営野球場でも4箇所の野球場のうち硬式野球の試合を行ってよいとされる球場もたったの1つである。当然ながら軟式野球は上記球場のすべてで試合を行うことができる。

こうしたことから軟式野球が永く続けていけると認識されている要因であると考えられる。

4. 結 論

本研究の目的は軟式野球と硬式野球におけるプレー感覚や、軟式野球を活動するにあたりスポーツとしての価値観を明らかにすることにより、適正な競技活動をする上での意識準備を構築するための基礎資料を得ることであった。この研究で得られた知見は以下のものである。

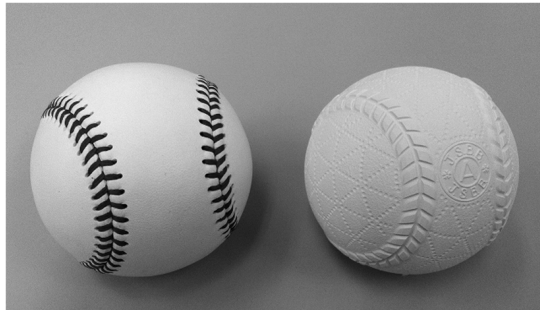
- ①大学軟式野球を活動している選手の多くは、高校時における活動は硬式野球がほとんどであった。硬式野球ではなく、軟式野球を選択した理由として「野球観（楽に感じる）」「時間的な拘束」「経済的な理由」という傾向がみられた。
- ②プレーの感覚について「攻撃面」では、硬式野球よりも軟式野球はヒットを打つことが難しく、特に打者として打撃におけるボールを捕まえるということが困難であると感じている。また、本塁打や長打が出づらく飛距離（遠くに飛ばす）を出すことの難しさを感じている傾向がみられた。
- ③プレーの感覚について「守備面」では、ボールの違いから硬式野球よりも軟式野球はバウンドが高いことや不規則であることが多いと認識しており、定位置を前にするなどの対応を行っているが、これまでのプレースタイルができないという意識傾向が多くみられた。
- ④社会性における感覚として、軟式野球はスポーツ競技として「安全」で永く付き合えるスポーツである。さらに小さな子供たちに競技を勧めることのできるスポーツであると感じている選手が多い傾向がみられた。

この研究を通じて、類似する2つの野球に対する感覚は硬式野球および軟式野球ともにそれぞれの特徴をもっており、その競技をすることによってより難しさを感じるようになる。特に大学時において軟式野球を競技種目として選択した選手の中には、実動する前における認識の甘さを多く感じとることができた。また、選択の理由として経済的理由があげられたことも大きな知見であった。

さらに、実際に競技をしている選手たちが軟式野球は安全で永く付き合えるスポーツであると感じ、子供たちへ勧めたいスポーツであるなどの知見を得ることができた。

今後、野球競技に関する指導方法や戦略戦術、選手たちの野球に対するプレーや社会性

での感覚などをより知見するためには、大学生だけでなく高校生や社会人などからの幅広い調査研究が必要であると考ええる。



参考・引用文献

- 1) 杉本厚夫編；「スポーツファンの社会学」世界思想社
- 2) 河野一郎監修，勝田隆著；知的コーチングのすすめ～頂点をめざす競技者育成の鍵
- 3) 名古屋光彦監修；「試合で活躍できる！軟式野球上達のコツ50」メイツ出版
- 4) 大内敬哉，福田和夫（1981）；「軟式野球攻撃の新戦法に関する一考察　－選眼スクイズについて－」『中京体育学研究』第21巻第1号，pp.86-91.
- 5) 福田和夫，大内敬哉，藤原健固（1985）；「硬式野球と軟式野球の違いに関する一考察　－選手の意識調査により－」『中京大学体育学論叢』第26巻第2号，pp.9-18.
- 6) 全日本大学軟式野球連盟　熱戦譜第10号
- 7) 2011 公認野球規則
- 8) 財団法人日本高等学校野球連盟（2011）「第56回全国高等学校軟式野球選手権大会」2011年8月発表
財団法人日本高等学校野球連盟Homepage（<http://www.jhbf.or.jp/nanshiki/2011/>）（2011年9月現在）
- 9) 財団法人日本高等学校野球連盟（2011）「第93回全国高等学校野球選手権大会」2011年8月発表
財団法人日本高等学校野球連盟Homepage（<http://www.jhbf.or.jp/sensyuken/2011/>）（2011年9月現在）